



# 公益社団法人 日本薬理学会

## 【薬理学とは】

人類の歴史は病気との闘いでもあり、その発展にくすりは欠かせない存在です。18世紀から19世紀にかけて、病気の原因が科学的に明らかになるにつれ、くすりがなぜ病気に効くのかを探求し、その作用機序を明らかにする学問、薬理学が誕生しました。その後、20世紀の生化学や分子生物学の発展により、神経伝達物質、ホルモン、オータコイド、サイトカインなどの生理活性物質の分子実体が明らかとなり、個体、器官、細胞、分子、遺伝子のレベルを貫いて、生体内外の化学物質と生体との選択的相互作用を総合的に解き明かす、今の薬理学が確立されました。

＜本会が発行している薬理学パンフレット＞

**薬理学への  
いざない**  
～くすりのしくみを知ろう～

病気の治療に使われる医薬品の働きなどを  
分かりやすく紹介しています

**Outstanding Drugs Developed  
in Japan** (日本語版)

日本で開発された医薬品を  
分かりやすく紹介しています



QRコードのサイトから  
左2つの薬理学パン  
フレットを無料でダウ  
ンロードできます。

## 【これまでの取り組み】

- ◆日本薬理学会年会（1回／年）・地方部会（北・関東・近畿・西南部会）の開催
- ◆国際連携
  - ・ IUPHAR（国際薬理学会連合）・APFP（アジア太平洋薬理学者連盟）との連携
  - ・ 米国・英国・中国・韓国・豪州薬理学会との連携
- ◆薬理学の教育
  - ・ 薬理学エデュケーター制度
  - ・ 教育リソース共有システム
  - ・ 看護薬理学カンファレンスの開催
- ◆若手研究者の育成
  - ・ 次世代の会（次世代薬理学セミナー開催）
- ◆褒章・奨励
  - ・ 江橋節郎賞／学術奨励賞／Journal of Pharmacological Sciences (JPS) Prize  
／年会優秀発表賞／JPS優秀査読者賞
- ◆社会貢献
  - ・ 薬理学パンフレット
  - ・ 市民公開講座
  - ・ 新薬紹介／薬理学用語集
- ◆学会誌
  - ・ 日本薬理学雑誌（1925年～）
  - ・ Journal of Pharmacological Sciences（1951年～）

## 【未来に向けて】

日本薬理学会は2026年に設立100周年を迎えます。Diversity, Integration, Sustainabilityという3つのキーワードを挙げ、薬理学の研究・教育活動の更なる活性化を通して健康長寿社会の実現に貢献します。

## 【基本情報】

- ◆名称：公益社団法人 日本薬理学会 (<https://pharmacol.or.jp/>)
- ◆沿革：1927年創立、1994年社団法人化、2012年公益法人化
- ◆代表者：理事長 赤羽悟美（東邦大学 医学部・教授）
- ◆会員数：3,805名（2022年12月現在）

